

中国産青磁に刻印された「顧氏」銘

■ 出土地：湧田古窯跡、渡地村跡、ドナンバル（与那原）遺跡

今回は、お碗の内側に「顧氏」の刻印がされている青磁5点を紹介します。この刻印は、15世紀前半（1436～49年頃）に中国の龍泉りゅうせん窯ようで活躍した有名な陶工である、顧仕成こしせいの名前に由来するものと考えられています。当センター収蔵品から「顧氏」銘の入った青磁を探してみたところ、那覇市の湧田古窯跡3点、那覇市の渡地村跡1点、与那国島のドナンバル（与那原）遺跡1点の計5点が見つかりました。

陶磁器の年代を調べるためには器に描かれた文様や形などを観察し、その変化を読み取ることが必要となります。湧田古窯跡出土の青磁碗は、3点とも異なる文様が描かれています。一つ目は丁寧に花の先を尖らせて描き、花卉の間にも花卉を描く青磁蓮弁文碗れんべんもんで、文様からすると14世紀後半～終末頃の龍泉窯系の製品となりますが、「顧氏」銘が確認されたことから15世紀中頃の製品となりました。「顧氏」銘のあるこの種の青磁碗は他に見つかっていません。二つ目が菊の花びらのように細かく花卉を描く青磁細蓮弁文碗さいれんべんもんです。この碗は15世紀中頃～16世紀前半の龍泉窯系の製品で、国内では山梨県新巻本村あらまきもとむら大甕内出土品、熊本県竹崎城腰曲輪南平場出土品たけざきじょうこしくるわみなみひらばの中に類例があります。三つ目は口縁近くに横方向の線が一本引かれた青磁直口口縁碗ちよっこうこうえんです。この碗は15世紀中頃～16世紀初頭の龍泉窯系の窯で製作された製品です。また、渡地村跡のものは15世紀中頃～16世紀初頭、ドナンバル（与那原）遺跡のものは15世紀中頃の龍泉窯系の製品と考えられます。

顧仕成が活躍した時代よりも後につくられたはずの青磁碗に「顧氏」銘が刻印されているのは、当時の陶工たちが自分たちの製品の商品価値を高めようとした結果なのかもしれません。〈金城 亀信〉